

# ウッティの 不思議な木の国

《暮らしに潤いを与える木の物語》



森のドクトル



ウッティ



DIYの長老



アースくん



木の精



百面相の木

登場人物

## お話しの目次

- ① 鉄のおうち
- ② DIYの長老
- ③ 百面相の木
- ④ アースくん
- ⑤ 森のドクトル
- ⑥ 木の精
- ⑦ 苗木のことば



## ① 鉄のおしり

「ははははのっ、本当に私のおしりかよのっ」

朝、目覚めたウツティはおもむす、そうさげびました。だって、木でできていたベッドも机も本だなも、そう、おうち全部が鉄に変わっていたのです。

そのピンヤリとした冷たさにふれた時、ウツティは思わず身ふるいしました。大声でパパとママを呼びましたが、おうちには誰もいないみたいです。

「ひと晩で、こんなことがおきるなんて、まるで、誰かに魔法をかけられたみたい」ウツティはとほごにくれて、おうちの中を歩きまわりましたが、

謎をとく手がかりはみつかりません。でも、謎を見わたせる部屋まできたとき、不思議な声を耳にしました。

「たすけてよ、たすけてよ」  
じつと目をすますと、そのかすかな声は窓の外から聞こえてきます。

ハジヤマを洋服に着がえて、あわてて隠にとびだしたウツティは、  
そこで不思議なものを見つけました。小学校に入学した記念にと、

パパとママが植えてくれたクリの木のとなり、  
大きな穴があいているではありませんか。

「なによ、この穴、だれが掘ったのよ」  
ウツティは穴に近づくと、まっ暗な底をのぞきこみました。

その時です。突然、ウツティの体は地面から浮きあがり、  
穴の中にスーッとすいこまれてしまったのです。

「きゃあ、だれかーたすけてー」  
そんなさげび声も、もう地上に届かなくなるほど、

どんとん落ちていったウツティは、突然、ふわふわ、  
やわらかなカンナクすのうえにじりりもすずすず

つきました。びっくりして目をハチクリしている、  
目の前に大きな机があって、フクロウみたいな

おじいさんが手にクギと金じしちをもって  
何かを作っています。

自然は目に見えない精神である  
精神は目に見えない自然である  
ドイツの哲学者、シェリングの言葉







「なんだい、お前さんは？ワシの工作のじゃまをするでない！」

丸い目をくるくる回しながら、おじいさんはウツティにむかってそう言いました。

「あなたこそだれよ！初対面の人にはちゃんと、あいさつするものよ！」

ウツティも負けてはいません。だって、かけっこも、木のほりも、クラスでいちばん。

男の子もかいません。

「ワシはローイの長老じゃ、木の国でワシを知らないなんて、お前さん、よそものだな」

ウツティはおじいさんに、穴からここに落ちてきたこと、

それから、大切なおうちが鉄にかわってしまったことを話しました。

「ワシは手作り工作なら、だれにも負けんが、あいにく魔法の力はもちあわせて

おらん。おうちをもっともどきたいのなら、木の精にお願いしてみるんじゃないな」

「木の精ってどこにいるの？」

「木で、何かを作ることができたら、見つける方法を教えてもよい」

長老は、ホッホッホとフクロウみたいに笑いながらそう言います。

工作どころかノコギリや金づちさえ手にしたことがないのに……。ウツティの

こまった顔を見て、長老は「しょうがないなあ。よく見ておれ。これがエントトト」

という、スポンのポケットから小さなツッパをとりだし、「ツッ」と吹きならしました。

すると不思議不思議……。机の上にはさしかかっていた角材や板やクキがはねおきて、

ウツティのほうへ行進してくるではありませんか。そして、「列にならんか」と

おせうと「一二三四五六七八九十」に本立でになりました。

「ああ、わかったかね。こんなふうに組み立てればいいのさ」

そんな長老の言葉にはげまされて、ウツティもそばにあった材料を手にして、

クキを打ちはじめました。作り方はさっき見ているからわかります。

30分もすると可愛い本立でが完成しました。木肌にはウツティの

手の温もりがまだのこっています。長老はそれをみるを「ニニニ」しながら、

遠くに見える小高い丘を指さしました。

「あの丘の上にはほつてらん。そこに大きな望遠鏡があるんじゃ。

それも、木の国じゅうが見わたせるような大きなヤツじゃ」

「ありがとう、おじいさんーその望遠鏡で覗かしてみよう」

ウツティはそういいながら丘へ続く小道をいちもくさんにか

けだしました。



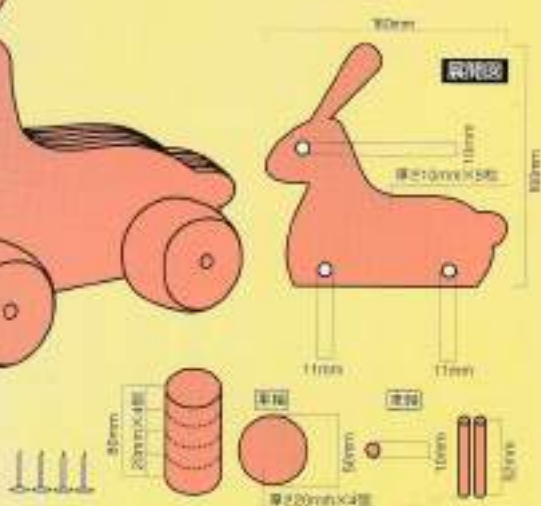
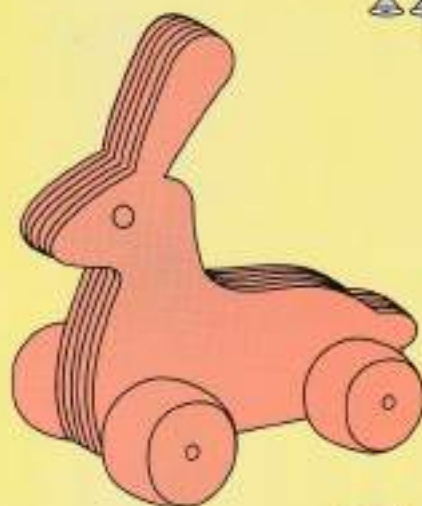
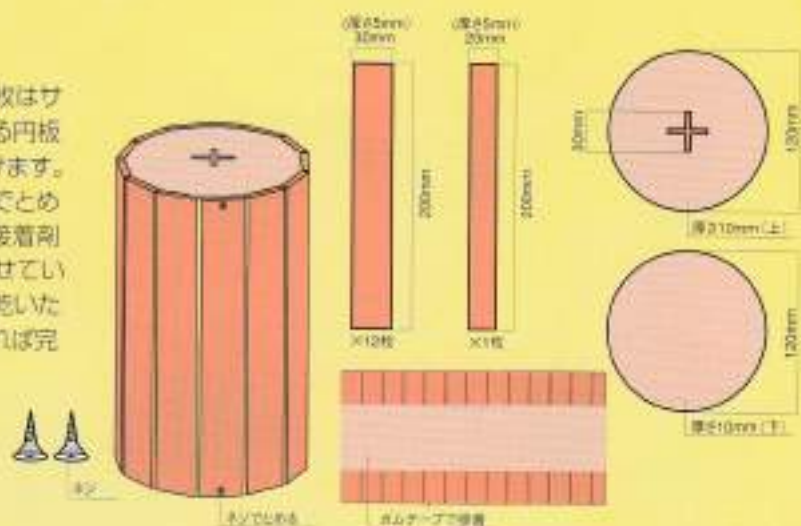


# 楽しい、手作り木工品

《パパといっしょに、みんなも作ってみよう!》

## 切り株貯金箱

糸ノコで円板2枚と、縦板12枚(1枚はサイズ違い)を切り抜きます。上になる円板の中心に十字の硬貨投入口をあけます。縦板を12枚ならべてガムテープでとめます。上下の円板の周りに木工用接着剤を塗り、縦板をまくように貼り合わせていきます。輪ゴムで固定し、接着剤が乾いたら縦板の上下2ヵ所をネジでとめれば完成です。

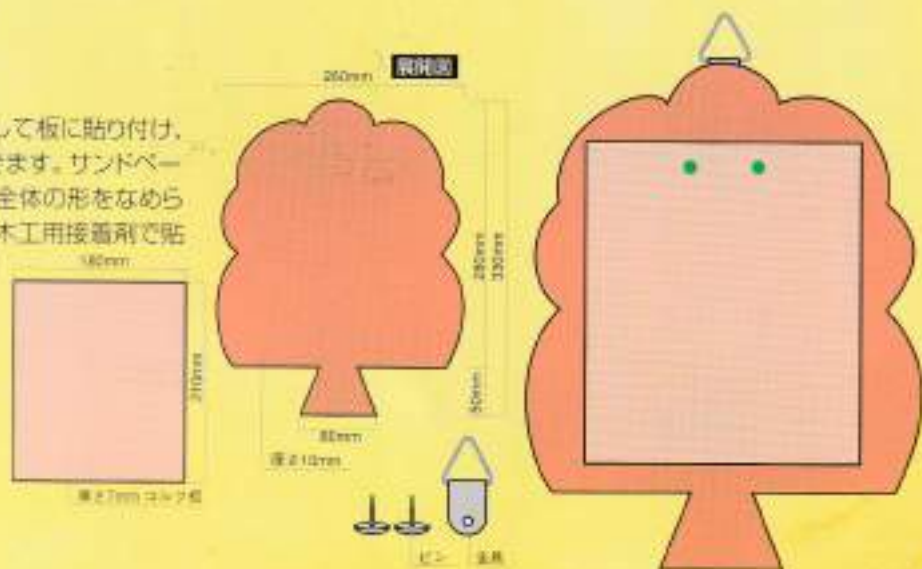


## コロコロうさぎ

展開図を5倍にコピーして板に貼り付け、糸ノコで線にそって切り抜きます。5枚切り抜いたら1枚ごとに目と足の部分に穴をあけて、木工用接着剤で貼り合わせてください。サンドペーパーで切り口を磨き全体の形をととのえます。足の部分にあけた穴に車軸を通して、車輪の上からクギを打ち、車輪と車軸をクギで固定させれば完成です。

## 森の伝言板

展開図を8倍にコピーして板に貼り付け、糸ノコで台板を切り抜きます。サンドペーパーで切り口を磨き、全体の形をなめらかにします。コルク板を木工用接着剤で貼り合わせ、上部に吊下げ金具を取り付ければ完成です。伝言がある時には紙に書いてピンでとめるだけ。家族みんなで使える伝言板となります。







### 53 百面相の木

丘へ近づくと、変な声が聞こえはじめました。

「どうやらそれは丘のてっぺんから聞こえてくるみたいです。」

それでも、ウツティは勇気をふるって丘の上にかげあがってみました。

するとどうでしょう。お化けみたいに大きな木が、

呪文をとえながらいろんなものに姿を変えているではありませんか。

テーブルになったり、イスになったり、オモチャになったり。変幻自在です。

「まるで、百面相みたい。見てみると、どれが本当の姿なのかわからなくなるわ」

「キッキキキ。いかにも、オレは4つの呪文でいろんなものに化けられるんだ。」

呪文の意味をせんぶとかなければ、お前をよぼよぼの老木にかえてしまっぞー」

「おどかさないで、あつす入いってよー。私はその望遠鏡で木の精をさがすんだから」

「それは呪文をどうにかしらしろーいーくそ、ユウ、シヨク、シユウ、ド、」

はじめはちんぷんがんとどしたが、よく聞いてみると

「ユウ」って呪文をとえた時には、積み木やケシ玉やコマに化けています。

ウツティは考えました。「どれも子供が遊ぶおもちゃばかり、

そうか、ユウ」って、遊のここのなね。」

ウツティは、木が暮らしの中でどんなふう役に立っているのかを考えながら、

「ユウ」呪文をどうにかしました。

「わかったわ、答えは遊(ゆ)く、食(じ)ぶく、住(じゅう)く、美(び)ね。」

「これでも、ナンナソは得意なんだから」

「答えをすべていい当てられた百面相の木は、

「ユウ」さんだとみえて、枝を腕のようにのぼしてウツティを抱きかかえ、

望遠鏡の前まではごんてくれました。でも、いくらその大きなレンズをのそいても、

木の精らしきものは見つかりません。

「心配いらないよ、百面相の木は、もう一度、遊(ゆ)くと

呪文をとええると、大きな飛行機に姿を変えました。

そして、ウツティを乗せると空高く舞いあがりました。





《木ならではのメリットがいっぱいありますね》

## 暮らしに生きるいろいろな木製品

### 子供の感受性を育む玩具

木の玩具は金属や合成樹脂でつくられたものより、デザインがはるかにシンプル。それがかえって、子供の想像力や創造力をひきだし自分なりの遊び方を工夫するきっかけとなります。また、どれも仕様が単純なので、自分で組み立てたり、動かしたりしなければならず、自発性の面でもメリットがあります。自然素材のもつ様々な肌ざわり、滑りや切り傷から身辺に感じることで、情操の発達にも大きなプラスとなります。

# 遊

YU



木から、ベックローリー。木の遊具、アソビコ



木から、ほしめ。家庭用キッチン、ウッドリネーサー

# 食

shoku

### 食卓で活躍するキッチングッズ

木のキッチングッズ類は、その使いやすさやデザインばかりに目を奪われがちですが、機能面でも知ってほしいメリットがいっぱいあります。木は熱を伝えにくいため木製カップやお椀は持っても熱くなく、中身もさめにくいので、氷のまな板はプラスチック製のものより、包丁のさこぼれが少なく、木の蓋はその香りと舌ざわりの良さで料理の味をひき立ててくれます。陶器やガラスのように強くても割れない木製品。洗った後、しっかりと水分をふきとれば長く使用することができます。

### 室内にやすらぎを生む家具

家具と言えば木を連想するくらい、杉、ヒノキ、コシ、ナラなど多彩な木材が活用され、それぞれが持つ風合いと肌ざわりで、暮らしに個性豊かなやすらぎを生みだしています。また、木の魅力を活かして新しい暮らし方を提案する家具も多く、写真のZAKUHI(ザクヒ)ダイニングテーブルとチェアなどは、田舎の温かな暮らしの息を現代のライフシーンによみがえらせています。家具の魅力は、木の魅力、素材の魅力にあると申せます。

# 住

YU



木のテーブル(ザクヒ)と椅子(ZAKUHI)ダイニングテーブル



木から、器の器。器の器。器の器

# 美

BI

### 伝統の心と技が生きる工芸品

全国を旅してみると、その土地ならではの伝統工芸品に出会います。その主眼となるのが木製品であり、職人の手仕事により制作される多彩な作品には、木の魅力があまるところなく引きだされています。私たち日本人は古くから木と親しみ、生活の道具として、また美の対象として木をこよなく愛してきたのです。日常の暮らしの中で使えば、そんな実用之美をさらに実感できます。



「わあ、すごくいい眺め！ いっしょに木の精をさがしてくれるのね」

二人は、こんどは空の上から木の精をさがしましたが、いくら飛んでも、美しい森と湖が広がるばかりです。でも、ホブラの並木道の上に来たとき、ウッティはアツと声をあげました。道に誰かが倒れているのを見つけたからです。

「ねえ、お願い。あそこに降りてー」

百面相の飛行機は空中で大きく回転しながら方向をかえ、ホブラの並木道に着陸しました。倒れている人を助けおこしたウッティはびっくり！

顔はまんまるで、青い肌で陸地みたいな模様がついているではありませんか。それはまるで地球の姿を見ているようです。

「どうしたの、しっかりしてよー」

「ありがと、ほくはアースっていうんだ。このごろ体の具合がよくないんだよ。熱が高くなったり、緑だった顔の模様も茶色っぽくなってきたり……」

アースくんはウッティを見あげて力なくそうこたえました。

「森のドクトルならなおせるかもしれないな。」

なんとつて木の国いちばんの名医なんだ！

百面相の飛行機が言いました。そして二人を乗せて再び空高く

舞い上がりました。白い雲が「がんばれ！がんばれ！」と励ましてくれます。

鳥たちも「空の救急車がきた」といってといてくれます。

大きな山をこえると森のドクトルの病院はもうすぐそこ。

それは大きなキノコのかたちをしていました。

飛行機が病院の庭に着陸するや、ウッティはアースくんをたきかかえて病院のドアをノックしました。中から出てきたのは、なんと白衣を着た

ウサギではありませんか。森のドクトルと呼ばれるそのうさぎはアース君の胸に長い耳をおしあてたあと、クスリ室に入っていきました。

しばらくモリモリという音が聞こえたかとおもって

「さあ、木からつくったこのクスリをのみなさい」といいながら部屋から出てきました。手のひらには緑色の3つの玉がのっています。







## 95 森のドクトル



ウッディはそのクスリの成分表をみてびっけりーだって、空気をきれいにしよ、  
気温を下げる効果だとか、地球の資源を守る効果だとかが書かれて  
いるではありませんか。みんなはそんなクスリ見たことあるっ。

ウッディが目を丸くして驚いていると、森のドクトルはそんなことはおかまいなしに、  
アースくんのをあけてクスリを飲ませてしまいました。

するとどうでしょう。アースくんの顔の茶色の模様が、まるで森が広がるみたいに  
きれいな緑色にかわっていき、くすんでいた青色もきれいな水色になりました。  
どうやら熱もさがったみたいです。

アースくんは立ち上がり、ウッディに「へこん」とおじぎをしました。

「ありがとう、キミがボクを助けてくれたんだね。」

人間がみんなキミみたいに思いやりがあれば、ボクはずっと元気なままで  
いられるんだ。自然への思いやりさ。

信じられないかもしれないけど、ボクはキミが住んでいる星、地球の今の姿なんだ  
「アースくんの病気が人間のせいだなんてどういことなの……」

ウッディはアースくんの言葉をきいて悲しくなりました。

木の国の住人は、私たち人間のことをきらっているのかもしれないわ。

それは人間たちが、緑や水や空気を大切にしないからっ。

地球のことを考えないで生活しているからっ……。

ウッディの目から小さな涙がこぼれ、足もとの地面をぬらしました。

するとどうでしょう、目の前にいた、アースくんや、百面相の飛行機や、

森のドクトルの姿が次々と消えてゆき、いろいろな花がやさしく風にゆれる  
花園の風景があらわれました。



# 緑のクスリの成分表

《木はとても地球にやさしい素材なのです》

## 空気をきれいにして、気温をさげる効果

快適で便利になった私たちの社会は、たくさんのエネルギーを使うことで営まれています。でも、必要なエネルギーの多くを石油やガスを燃やすことでまかっているため、大気中に炭酸ガスが放出され、それが地球温暖化や酸性雨のひきかねになっています。そんな人間がひきおこした地球の病気をいやすために、樹木がもつ「自然の効力」が注目を集めています。木や植物は葉っぱから炭酸ガスを吸い、根から水分をとり太陽の光をあげてスクスクと成長します。これは専門用語で「炭酸ガスの固定化」と呼ばれるもので、炭酸ガスを体内に封じ込める働きです。そして、たとえ伐採されて木材として利用されても、燃やしてしまわない限り炭酸ガスをしっかりと固定化し続けます。空気を浄化するために植林をおこなったり暮らしの中で木を大切に使うことで、地球温暖化や酸性雨にブレーキをかけることができるんですね。

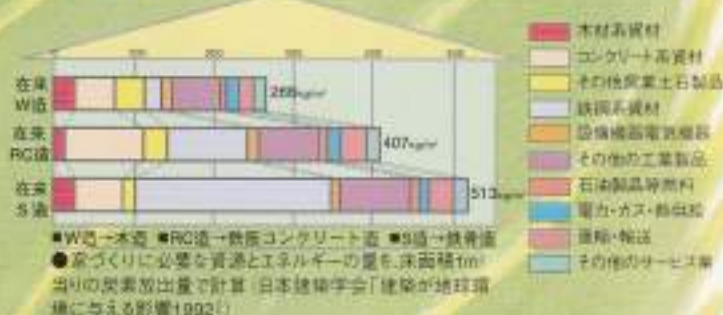
## ■炭酸ガスを固定化する木の働き



## エネルギーを節約する効果

私たちの身の回りには、鉄やコンクリート、アルミニウムなど様々な材質の素材があふれています。でも、これらをつくりだすために多くのエネルギーが使われており、それが地球環境の悪化の原因となっています。でも、木材という素材はどうでしょうか？ 原木を加工するだけですむ木材は、他の素材に比べてとても少ないエネルギーで生産できます。各素材をつくるのに必要なエネルギー量を炭素放出量におきかえてみると、1トンの木材をつくるのに天然乾燥なら30キログラムですが、コンクリートはその1.6倍、鋼材は2.3倍、アルミニウムは290倍もの炭素を大気中にまきちらしているのです。私たちの暮らしに木材を幅広く活用することにより、エネルギー節約のメリットが生まれ、環境への負担も少なくなることができるというわけです。

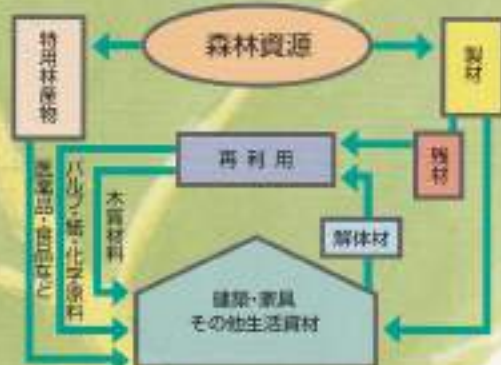
## ■木造建築は省エネルギー



## 地球の資源を守る効果

天然資源として、私たちがまず思い浮かべるのが石油、石炭、そして鉄などの鉱石。でも、これらの資源は限りあるもので、とりつくばばやがて無くなってしまいます。でも木は伐採しても、計画的に植林さえすれば無限に再生可能な資源であり、地球とともに生き続ける自然の恵みです。また利用後の処理を考えると、木材は再利用しやすい素材であり、木片や老朽木材をパルプの原料にしたり、古新聞や雑誌から再生紙をつくるなどのリサイクル化も進んでいます。地球資源の保護とゴミの減量化に貢献する木は、地球にやさしいエコロジー素材であるといえます。

## ■リサイクルされる森林資源





96 木の精

「大切なものは、いつも目に見えないんだ」

風によってあらわれた小さな妖精が、ウツティにささやきかけます。それは、まさきれもなく木の精でした。ウツティはやつと木の精に出会うことができたのです。「大切なものは、目に見えないって……」

「何年、いや何百年かかっても、ホクに会えない人もいる。でも、キミはちがったね。キミはやさしい心の目でホクを見ているんだよ」

ウツティは小さな胸がキュンとなったような気がしました。そして、なぜ自分のおうちが鉄にかわってしまったのか、庭から聞こえてきた不思議な声はなんなのかを、木の精にたずねました。

「それは、木がキミになにかを伝えたがっているんじゃないかな」  
木の精は、そう答えました。

「とにかく、キミが不思議な声を聞いたお題にもう一度聞いてもらいたい。おじぎをもとにもどすことができるかもしれないよ」

「でも、私、どうして帰ったらいいの。人間の世界にどうしたら戻れるの？」

ウツティは、やさしいババやママ、仲良しのお友達顔を思い出さず、さゆうにさびしくなりました。

「これに、すわってごらん。キミを人間の世界へつれ戻してあげるよ」

木の精は、足元にある大きな切り株を指さしながらそう言いました。そして、ウツティをその土に座らせると、「いいかい、しっかりとかまっているんだよ」と言いつつ、手にもっていた小さなステッキをひとふりしました。

するとどうでしょう。切り株はまるで生命をあたえられたように、ウツティを乗せたまま大空へむかってガンガンと伸びていくではありませんか。

光のように直線に、ロケットみたいなスピードです。下を見おろすと、おじぎまでウツティがいた木の国が、どんどん小さくなっていきます。

「ずいぶんいい。ジェットコースターに乗るよりワクワクするわー」

はしやきさすきたウツティが、切り株から手をはなしたその瞬間。

「キヤあー」

切り株からふりおとされ、ウツティはもといた木の国へむかって直線に落ちていきました。「木の精さん、たすけてーたすけてー」





ハッとして、ウツティは目をさました。「それは、いつもの入ったの中です。」

眠い目をこすってあたりをみまわしてみると、机もテーブルも本たなも、そして、おうちも、いままでと同じで変わっていません。それは鉄ではなへ、ウツティの大好きな木のおうちです。「今のは夢だったの。それにしても不思議な夢」

ウツティは、ベッドから飛びおきると、お庭に出ってみました。そこは、緑の木々がはなついい香りに包まれていました。花のあいたをとびまわるチョウや、忙しく働くアリさんの姿もいつとありです。でも、よく見るとクリの木となりに植えてあった、リンゴの苗木がなくなっているのに気がつきました。きつと、夕べの強い風でふき飛ばされてしまったのでしよう。

「あーそう、ごめん、夢の中で大きな穴があいていたとごめん……。なぜ、気がつかなかったのかしら。きつと、リンゴの苗木が、たすけてよ」と呼びかけていたんだわ」

苗木がたすけを求めて、自分のことを思い出してもらおうと、私のおうちを鉄に変えたのかしら……。とても不思議なことだ。

そう思いながら、ふと、ウツティは木の精が言っていた、大切なものは目に見えない、という言葉の意味がわかった気がしました。

やさしさや思いやりというものは、目にはみえません。けれど、それはたしかにあると私たちの心がおしえてくれます。

ウツティは木の国で、なにか大切なことを学んだように思いました。

そして、やさしさや思いやりを生む心というものが、やさしい自然の風景ににていると感じました。

風に飛ばされた苗木は、バラの植えこみの中にさびしきうに落ちていました。

「こんどは強い風にも雨にも負けないようにしっかりと植えてあげるからね」ウツティは、苗木を小さな手でやさしくひろいあげました。

「ありがとう、私たちは本当は人間が大好きなのよ。だって昔からずっと仲良しだったじゃない」

ウツティの耳にそんな声が聞こえたような気がしました。

手の中の苗木はほほ笑むように、その小さな葉っぱを風にゆらしました。





暮らしイキ、けん木れん。

# けん木れん

静岡県木材協同組合連合会

〒420 静岡市追手町9番6号 県庁西館9階  
TEL.054-252-3168 FAX.054-251-3483

